

# 救護班B活動報告

# 活動概要

- ▶ 岩手医大より宮古保健所へ派遣され、県立宮古病院の情報収集を行うよう指示を受ける。
- ▶ 県立宮古病院にて救護班受付を設置し、運営を開始する。
- ▶ 活動対応内容
- ▶ 病院より、地域の医療機関の様子について確認の依頼があり、2か所の医療機関へ訪問し、アセスメントを行う。
- ▶ 派遣活動時の管理栄養士の重要性

# 県立宮古病院の状況

- ▶ 建物・施設：耐震構造で、ヒビ程度で問題無し。空調設備故障中。  
手術不可、透析不可
- ▶ 通信：固定・携帯がつながりにくい，防災無線使用不可，  
衛星電話つながらない
- ▶ ライフライン：全て途絶  
⇒自家発電機（重油）対応中も燃料の残りが2日
- ▶ 水：貯水タンク（400t）に280tあり、2日程度もつ  
⇒給水車を手配中
- ▶ 医療ガス：院内の安全確認中で現在は使用を停止している。ボンベで対応して  
おり、残り1日分
- ▶ 患者：確認中だが数名搬送が必要かもしれない。呼吸器装着者は2名で、  
自家発電で対応可能。外来落ち着いているが、帰宅困難者有り
- ▶ 職員：人数については問題無し
- ▶ その他：市内が被害大だが、情報が全くない。外部へはface to faceで連絡。  
二次被害については問題無さそう

# 県立宮古病院へ派遣



# 救護班受付設置・運営開始



# 主な活動内容

- ▶ 県立宮古病院支援
  - ・ 患者支援要請（赤 8 人，黄 27 人）
  - ・ 透析患者対応
  - ・ 自家発電機用燃料の調達
  - ・ 呼吸器疾患用の酸素の調達
  - ・ 軽症用テントの調達
  - ・ 院外 2 機関へ訪問し、アセスメントを実施する

# 支援要請病院へのアセスメント訪問

- ▶ 県立宮古病院より、奥脳神経外科と訪問看護ステーション「かがやきナースケア」より病院へ支援要請が入ったとの情報があった。
- ▶ 病院から早急に支援を入れてほしいとの要請があり、病院へDMATが到着し、院内の体制が安定したため、
- ▶ 救護班受付よりアセスメントのために2名を派遣決定

# 支援依頼元へアセスメント訪問





# 派遣活動時の管理栄養士の重要性

- ▶ 先々の活動を充実させ、継続的な活動を実施するためにも食事は大事！！



# 考察

## 【良かったところ】

- ・ 正確なルートで迷わずに目的地へ行けた。
- ・ クロノロがきれい
- ・ 出発の段階でEMISをうまく活用できた（救護班登録, リストの作成・印刷）
- ・ ラップPONの有用性に気付いた。（缶詰の汁等の残飯処理にも使えた。）
- ・ 先を見据えた活動計画を立てられた。
- ・ 写真をたくさん撮れた。
- ・ 役割分担が適材適所にうまくできた。
- ・ 食事がサイコー！！(≧▽≦)

## 【悪かったところ】

- ・ 連絡先や写真などの共有が足りなかった。
- ・ Aチーム（宮古保健所本部）との情報共有がうまくいっていなかった。  
（考えや方針を共有できていなかった。）
- ・ アセスメントが悪かった。支援に結びつくアセスメントが足りなかった。

**※相手のことを考えた活動が重要**